

# テキストタイプが第2言語 (L2) 読解力に及ぼす影響再考

## *A reconsideration of the effects of text type on the L2 reading ability*

奥村 信彦

長野保健医療大学共通教養センター

要旨：テキストタイプにより読みのプロセスに差異が見られる、との第1言語における読解研究にヒントを得、第2言語での読解においても同様の傾向が見られるか、またその結果、テキストタイプが読解力に影響を及ぼす可能性があるのか、について2つのテキストタイプ (expository と narrative) を対象とし、英語の習熟度にも注目してなされた研究を振り返った。第2言語においてもテキストのタイプにより読解力には差があり、同じテキストを読む際にはほぼ同等の理解度が示され、これと、異なるタイプのテキストを読む際の理解度との間には差が認められる傾向があることは明らかである。読解指導においては、テキストタイプの特性に応じたリーディング・ストラテジーが学習者の第2言語の習熟度に配慮しながら教授されることが望ましい。リーディング・ストラテジー指導の一つとして、発問を用いた指導の可能性にも言及した。

キーワード：テキストタイプ、読解力、第2言語

**ABSTRACT:** In first language (L1) research, it has been noted that there is a difference in the reading process according to the types of text being read. Each type of text has its own conventional structure, and based on a good knowledge of this, skilled readers process the text using appropriate reading strategies. This perspective has been generally neglected in second language (L2) reading instruction in Japan. In this paper, previous studies into L2 reading comprehension focusing on text type regarding a learner's L2 ability, the topic of a text, and background knowledge are reviewed. Indications are that there tend to be variances in an L2 learner's reading ability in accordance with text type, and that the same reading ability level tends to be shown when a learner reads materials of the same type. Strategy training specific to each text type should therefore be emphasized more in the classroom, while considering learners' L2 ability. As one possible way of strategy training, asking questions, especially inferential questions, based on the features of each text type is suggested.

**Key words:** Text type, Reading ability, Second language

### 1. はじめに

読むことに熟達した人は様々なタイプのテキストを読む<sup>1)</sup>。小説、エッセイから評論、新聞記事、広告、取扱説明書等にいたるまで異なるタイプのテキストをそれぞれの目的のもとに読み理解する。その際、意識するしないに関わらず、それぞれのタイプのテキストがもつ、すなわち各々のテキストタイプの形式、構成、表現、語彙などの特性を識別しながら読み進めるものと考えられる。どのタイプのテキストもその特性に応じ読解できることが望ましく、これが可能な読者を優れた読者と言うことができる。

日本人英語学習者が英文を読解する際にも同様に、どのタイプのテキストに対してもその特性に応じ適切なリーディング・ストラテジー (読解方略) を採用し読み進めることができる読者となることが望ましい。しかしながら日本の英語教育においては、文法訳読式授業に代表されるように、どのタイプのテキストに対してもほぼ一律の指導がなされてきた嫌いがある。その結果、テキストのタイプにより読解力に差が生じる懸念がある。

本稿では、第2言語 (L2) におけるテキストタイプによる読解プロセスの差異、そこから起因すると考えられる、読解力に及ぼすテキストタイプの影響についてなされた研究を概観し、そのう

えてテキストタイプに応じたリーディング・ストラテジーの指導について一つの提案を試みる。

## 2. テキストタイプによる読解プロセスの差異

第1言語における読解（以下 L1 reading と表記）研究において、テキストのタイプにより読みのプロセスに差異が見られることが指摘されている<sup>2-4)</sup>。Olson et al. は大学生を実験参加者とし、4つの異なる story（well-formed が2つ、ill-formed が2つ）と2つの essay（それぞれ well-formed と ill-formed、計4つ）の読解プロセスを発話思考法により調査した。story すなわち「物語文 (narrative)」を読む際の読者は基本的に予測的志向 (prospective orientation) を示し、冒頭部分で背景を把握すると話の筋 (plot) がどのように展開していくのか、先へ先へと具体性のある明確な予測をした。これに対し、essay すなわち「評論・説明文 (expository)」を読む際の読者は回顧的志向 (retrospective orientation) を示し、読んでいる部分を既に読み終えた部分と関連づけることが主で、予測も若干観察されたものの、それらは概略的 (general) なもの（例「次に理由が述べられるだろう」）であった。この違いはそれぞれのテキストタイプの特性に起因するものと考えられる。

このようなテキストタイプによる読解プロセスの差異が第2言語における読解（以下 L2 reading と表記）においても確認されるか、奥村<sup>5)</sup> は発話思考法により検証を試みた。narrative と expository の各テキスト（各テキストの定義は次章で述べる）を一文ずつカードに印字し、日本人高校生の実験参加者4名に、カードの英文を音読してはそのとき思い浮かんだことをすべて発話し、次のカードに読み進むよう指示した。録音された発話はすべて文字にされ、読解を進める際に用いられた35のリーディング・ストラテジーに分類、分析された。その結果から次の点が明らかになった。

- ① L2 reading においてもテキストタイプにより読解プロセスに差異が見られる。
- ② Narrative テキストを読む際の読者は、読んである部分を既に読み終えた部分と関連づけつつテキストにはない個々の情報を文脈から推測し、筋 (plot) の展開を明確に予測しようと

試みる傾向を示す。

- ③ Expository テキストを読む際の読者は、読んである部分を既に読み終えた部分と関連づけつつ抽象度の高い主題を理解するために懸命に具体例を模索し、同時に著者の主張に対し自らの意見を表明することによって理解を深める傾向を示す。予測も見られるが、L1 reading の場合と同様に概略的なものである。

L2 reading においても L1 reading とほぼ同様の傾向が認められた。奥村はこの結果が示唆するところは、第2言語での読解指導にあたってはテキストタイプにより読解プロセスに差異があることをふまえ、共通のリーディング・ストラテジー（「未知語の意味を文脈から推測する」「文法や表現に言及する」等）とともに各々のテキストタイプに応じたリーディング・ストラテジーの指導により、学習者の総合的読解力の伸長を測ることの重要性である、としている。

## 3. テキストタイプが第2言語における読解力におよぼす影響

### 3-1. テキストタイプの種類と定義

奥村<sup>6)</sup> は Olson et al.<sup>2-4)</sup> の研究から示唆を得、テキストタイプによる読解プロセスの差異から生じると考えられる読解力の違いを L2 reading で検証することを試み、テキストタイプを大きく expository（説明文）と narrative（物語文）に分け、それぞれの典型を以下のとおり定義した。そのまま引用する。

#### 1) Expository

##### a. 要素

主題ないしは主張とそれを支える複数の根拠ないしは例証から成る。

##### b. 構成

パラグラフが a. の要素を含み、以下の三つの論述形式のいずれかをとる。

- (1) 演繹的論述：主題が冒頭に置かれ、根拠がそれに続く（末尾に結語文が付くこともある）。
- (2) 帰納的論述：根拠が最初に述べられ、主題が次に述べられる。
- (3) 主題が中程におかれ、その前後に根拠が置かれる。

橋内 (1995: 9) はこれらをそれぞれ逆ピラミッド型、ピラミッド型、ダイヤモンド型と名付けている。

c. Rhetorical organization

Carrel (1984b) は L1 での研究をもとに、つぎの 4 つの rhetorical organization を expository の典型的なタイプとしている。1) Collection of Descriptions、2) Causation、3) Problem/Solution、4) Comparison

本研究では、1) Collection of Descriptions は、narrative における description との混同を避けるため Collection of Statements と置き換えることにする。

Olson et al. (1981) によれば、Comparison については、比較・対照される事柄が別々に述べられる場合と、並行して交互に述べられる場合とがある。

これらの rhetorical organization のタイプは単独ないしは組み合わせて用いられる。

d. 言語・文体

抽象度が高く formal な語彙や表現が多く用いられる。

2) Narrative

a. 要素

場面、時、登場人物、ナレーター、plot から成る。

ナレーターは著者自身ないしは著者とは別の第三者である場合と、登場人物の一人である場合がある (Cullinan et al. 1989: 173)。

b. 構成

場面設定が冒頭でなされ、plot が展開される。

c. Plot

個々の出来事が時と場所 (一定の場所のこともある) を別にして展開される (Olson et al. 1981, Carrell 1984a)。ストーリーの中の各々の出来事には因果関係 (ただし、原因が明示的に述べられることはまれ) があり、その中に問題が起り、中心的な登場人物 (複数の場合もある) の意図的行為により解決される (Olson et al. 1981)。

d. 言語・文体

場面、時、人物、人間関係、心理状況についてナレーターにより具体的な描写 (description) がなされる。会話が重要な要素となり、informal な語彙や表現が用いられる。

3-2. タイプの異なるテキスト間の読解力の比較

テキストのタイプにより読解プロセスに差異があるとすれば、タイプの異なるテキストを読む際の読解力にも差が生じる可能性がある。

奥村<sup>6)</sup> は高校生に典型的な expository と narrative のテキストを用いた多肢選択式の英文読解問題を与え、得点間の相関に注目した。分析の結果、得点間にはほとんど相関が見られないことが明らかになった。これは narrative よりも expository の理解に優れている学習者が、あるいはその逆のケースが存在すること、すなわち、テキストタイプにより英文読解力に差があることを意味している。これがそれぞれのテキストタイプの読解プロセスに起因するのか、あるいは学習者の母語・目標言語における読書傾向と関わっているのか等、さらに究明が必要としたうえで、学習者に総合的な読解力をつけさせるためには、様々なタイプのテキストを与えること、またそれぞれのテキストタイプに適したリーディング・ストラテジーを教授することが必要であるとした。

奥村<sup>7)</sup> は奥村<sup>6)</sup> の再検証をリコール・テストを用いて試みた。リコール・テストはテスト項目によって干渉を受けることがなく、理解の度合いをより純粋に計測する手段とされる<sup>8)</sup>。実験では、高校生に expository と narrative の英文テキストを読ませた直後に日本語によるリコール・テストを課し、これをプロトコルとした。それぞれのテキストをアイデア・ユニットに分け、これにしたがってプロトコルを採点し、その総数を読解力の指標とした。リコールされた 2 つのプロトコルのアイデア・ユニットの総数の間には中程度の相関が見られたものの、対象とした高校生の英語力が上位に位置すること、また与えたテキストが比較的平易であったことから、テキストタイプにより読解の度合いに差があることは否定できなく、これはテキストタイプにより読解のプロセスに差異があることに起因するものと考えられるとした。この結果は奥村<sup>6)</sup> を支持するものと言える。

3-3. 異なるタイプおよび同じタイプのテキスト間の読解力の比較

読解力の検証は 2 つの異なるタイプのテキスト間の比較のみでは十分でなく、同じタイプのテキスト間での比較を加えることが必要である。

奥村<sup>9)</sup>は、高校生を対象とし、英文の expository テキスト 1つと narrative テキスト 2つを読ませ、多肢選択式の読解問題を与えた。得点の分析から同じタイプのテキスト (narrative) 間の得点の相関は異なったタイプのテキスト (expository と narrative) 間の得点の相関よりも高いことが明らかになった。これは、テキストのタイプにより読解力に差が生じる傾向があり、同じタイプのテキストを読む際には同等レベルの理解度が示されることを意味している。

### 3-4. 異なるタイプおよび同じタイプのテキスト間の読解力の比較と第2言語の習熟度

奥村<sup>10)</sup>は高等専門学校生に英文の expository テキスト 2つと narrative テキスト 1つを読ませた直後に日本語でリコール・テストを課し、そのプロトコルをテキストのアイデア・ユニットにしたがって採点した。また、読解指導への示唆を得るため、学習途上にある実験参加者の英語習熟度に注目し、英語力との関係についても調査した。その結果、次の点が明らかになった。

- ① テキストタイプによってL2読解力には差があり、同じタイプのテキスト (expository) を読む際にはほぼ同等の理解度が示され、これと異なるタイプのテキスト (narrative) を読む際の理解度との間には差が認められる傾向がある。
- ② 第2言語の習熟度が高い学習者は①の傾向をより明確に示すことが確認された。第2言語の習熟度が低い学習者については、いずれのテキスト間も相関の有意性は認められなかった。

①は奥村<sup>6)</sup>、奥村<sup>7)</sup>、奥村<sup>9)</sup>をさらに支持するものである。②については、英語力の制約からテキストに応じた読解ストラテジーを持ち得ていたとしても有効に使用できるとは限らないものと考えられる。奥村は、英語力の習熟度が高いとテキストタイプに応じ、身につけているリーディング・ストラテジーを使用しやすく、習熟度が低い場合はリーディング・ストラテジーを有効に使用できるとは限らないものと考えられ、有効に使用するために必要な英語力の伸長を総合的に図ることが重要である、としている。

### 3-5. 共通のトピックを持つ異なるタイプおよび同じタイプのテキスト間の読解力の比較と第2言語の習熟度

テキストの読解には様々な要素が関わっている。テキストのタイプに加え、テキストのトピックの違いが読解に影響を及ぼす可能性がある。この影響を抑え、テキストタイプが読解の度合いに及ぼす影響をより正確に検証するため、奥村<sup>11)</sup>は高等専門学校生を対象に、マザー・テレサの説く愛を共通のトピックとする expository テキスト 1つと narrative テキスト 2つを読ませ、その直後に日本語でリコール・テストを課し、英語習熟度との関係も調査した。得られたリコール・プロトコルのアイデア・ユニットの総数の分析から、次の点が明らかになった。

- ① テキストタイプによってL2読解力には差があり、同じタイプのテキストを読む際にはほぼ同等の読解の度合いが示され、これと異なるタイプのテキストを読む際の読解の度合いとの間には差が認められる傾向があり、英語の習熟度が高い学習者の場合は特にこの傾向が顕著である。

- ② 第2言語の習熟度が低い学習者については①の傾向が確認されなかった。

①は奥村<sup>6)</sup>、奥村<sup>7)</sup>、奥村<sup>9)</sup>、奥村<sup>10)</sup>を支持するものであった。②は異なるテキストタイプ間ではアイデア・ユニットの総数に中程度の相関がみられたのにもかかわらず、同じテキストタイプ間では相関が見られなく、実験参加者全体の傾向からすると予期しがたい結果であった。リコール・テスト後の実験参加者へのアンケートで、3分の2を超える参加者がマザー・テレサについて「あまり知らない」「知らない」と答えていることから、奥村はこの要因の一つとして、トピックに関する個々の実験参加者の背景知識の差あるいは不正確さが考えられる、としている。

### 3-6. 背景知識が共有された共通のトピックを持つ異なるタイプおよび同じタイプのテキスト間の読解力の比較と第2言語の習熟度

背景知識の有無がテキストの記憶や理解、読解のプロセスに影響を与えることが指摘されている<sup>12)</sup>。実験参加者全体がテキストのトピックについて一定の背景知識を共有するならば、この影響

を抑え、テキストタイプが読解力に及ぼす影響をより正確に検証することが可能になる。

奥村<sup>13)</sup>は、共通のトピックを持つ異なるタイプのテキストを用い、共通のトピックについて一定の背景知識を持つ高等専門学校生を対象としてリコール・テストを行った。テキストは奥村<sup>11)</sup>で用いた expository テキスト1つと narrative テキスト2つを使用した。実験の10か月前にマザー・テレサの生涯について書かれた多読用教材を授業外の課題として与えられており、実験後に実施した無記名のアンケートによれば、「全部読んだ」と回答した者が59.6%、「半分以上読んだ」という者が21.3%、「読まなかった」という者は皆無であった。実験参加者はトピックについて一定の背景知識を共有していると考えられる。

リコール・テストのプロトコルの分析から、以下の点が明らかになった。

- ① テキストのタイプによってL2読解力には差があり、同じテキストを読む際にはほぼ同等の理解度が示され、これと異なるタイプのテキストを読む際の理解度との間には差が認められる傾向がある。
- ② この傾向は第2言語の習熟度に関わらず確認される。
- ③ 第2言語習熟度が高い学習者は、テキストのタイプに関わりなく一定レベルの読解を達成する可能性がある。

L2習熟度が低い学習者にも①の傾向は顕著に見られ、奥村<sup>10)</sup>、奥村<sup>11)</sup>とは異なる結果となった。

### 3-7. 共通のトピックを持つ異なるタイプおよび同じタイプのテキスト間 (narrative 2・expository 2) の読解力の比較と第2言語の習熟度

奥村<sup>9)</sup>、奥村<sup>10)</sup>、奥村<sup>11)</sup>、奥村<sup>13)</sup>では、実験に用いられたテキストは同じタイプのテキスト2つと異なるタイプのテキスト1つの組み合わせであった。同じタイプのテキストを2つずつ読解すれば、同じタイプのテキスト間の相関をさらに詳細に検証することが可能になる。

奥村<sup>14)</sup>は高等専門学校生に共通のトピック(人種差別)を持つ4つのテキスト(expositoryとnarrative 英文テキスト各2)を読ませ、その直後

に課したリコール・テストのプロトコルを分析することにより、詳細にテキストタイプとL2読解力との関係を検証した。その結果、以下の点が確認された。

- ① テキストタイプによりL2読解力には差があり、同じタイプのテキストを読む際にはほぼ同等の理解度が示され、これと異なるタイプのテキストを読む際の理解度との間には差が認められる傾向がある。
- ② 第2言語の習熟度が低い学習者の場合はこの傾向を明確に示す。
- ③ 第2言語の習熟度が高い学習者の場合、narrative テキスト間についてはこの傾向が見られるが、expository テキスト間については見られないことがある。

第2言語の習熟度が高い読者の場合、narrative テキスト間には相関がみられたが、expository テキスト間の相関は中程度で、narrative と expository 間の相関とほぼ同様かより低く、これは全体の傾向からは予期しがたい結果であった。テキストのトピックが同じことから、これはトピック以外の要因による可能性がある。

### 3-8. 背景知識が共有された共通のトピックを持つ異なるタイプおよび同じタイプのテキスト間 (narrative 2・expository 2) の読解力の比較と第2言語の習熟度

奥村<sup>15)</sup>は、高等専門学校生を対象とし、奥村<sup>14)</sup>で使用した共通のトピックを持つ異なるタイプの4つのテキスト(expositoryとnarrativeの英文テキスト各2つ)を用い、リコール・テストを行った。実験参加者は実験の1年4か月前と6か月前にトピックに関連した多読教材を授業外の課題として与えられており、一定の背景知識を共有していると考えられる。リコール・プロトコルの分析から、以下の点が明らかになった。

- ① テキストのタイプによってL2読解力には差があり、同じテキストを読む際にはほぼ同等の読解力が示され、これと異なるタイプのテキストを読む際の読解力との間には差が認められる傾向がある。
- ② 第2言語の習熟度が低い学習者についてはこの傾向がより顕著である。
- ③ 第2言語の習熟度が高い学習者の場合、

expository テキストを読む際にテキストの持つ他の要因が読解に影響を及ぼす可能性がある。英語の習熟度が高い学習者の場合、expository と narrative 間の相関に比べ narative 間に相関はあったが、expository 間の相関は中程度で expository と narrative 間の相関 2 組よりも相関が低かった。これは、奥村<sup>14)</sup>と同様の結果であった。奥村は実験に用いた 2 つの expository テキストの rhetorical organization の違い (Collection of Statements と Problem/Solution) による可能性が考えられるとしている。

3-9. まとめ

以上の研究の結果を表 1 に示す。

異なるタイプのテキストを読む際にも一定の相関が見られるケースがあったことは、expository テキストを読む際の読解力と narrative テキストを読む際の読解力がほぼ同等である学習者が存在することを意味している。

しかしながら、異なるタイプのテキストを読む際に比べ、どの実験においても実験参加者全体では同じタイプのテキストを読む際のほうがより高い相関を示したことから、テキストのタイプによって L2 読解力には差があり、同じタイプのテキストを読む際にはほぼ同等の理解度が示され、これと異なるタイプのテキストを読む際の理解度との間には差が認められる傾向があることは明らかである。

読解指導への示唆を得るため、学習途上にあ

る実験参加者の英語習熟度との関係についても調査した。習熟度が高い学習者の場合、共通のトピックおよびトピックの背景知識の共有を試みたにもかかわらず、expository テキスト間の相関が expository と narrative 間の相関より高いとは言えないとの結果は全体の傾向から予期しがたいものであった。奥村<sup>15)</sup>は実験に用いた 2 つの expository テキストの rhetorical organization の違いによる可能性があるとしている。習熟度が高いため、上位技能にリソースを注ぐ余裕があり、rhetorical organization の違いにより生じる読みのプロセスに差があった可能性がある。

奥村<sup>16)</sup>はテキストタイプにより読解力に差が認められることをふまえ、日本人英語学習者がタイプの異なる 2 つの英文テキスト (narrative と expository) を読解する際に自由記述した困難点の分析から、次の点を明らかにした。

- ① テキストのタイプに関わらず、語彙へのアクセスに大きな困難を感じている。
- ② Narrative テキストを読む場合に感じる困難点は、登場人物およびその行為、また、舞台、場面に関わるものであり、expository テキストを読む場合に感じる困難点は、批判的読み、統括性、テキストの構造に関わるものであった。

expository テキストを読む場合に感じる困難点である統括性、テキストの構造は rhetorical organization に関わるものである。rhetorical organization による読解プロセスの違いについてさらなる検証が必要である。

表 1 各実験の使用テキストおよび相関の程度

論文	テキスト 組合せ・数	全体		英語力上位群		英語力下位群		トピック		背景知識
		異なる テキスト間	同じ テキスト間	異なる テキスト間	同じ テキスト間	異なる テキスト間	同じ テキスト間	共通		共有
奥村 (6)	exp. 1, nar. 1	×						×		
奥村 (7)	exp. 1, nar. 1	○						×		
奥村 (9)	exp. 1, nar. 2	○○	nar. 間◎					×		
奥村 (10)	exp. 2, nar. 1	○○	exp. 間◎	○○	exp. 間●	××	exp. 間×	×		
奥村 (11)	exp. 1, nar. 2	○○	nar. 間●	○○	nar. 間●	○○	nar. 間×	○	マザー・テレサ	
奥村 (13)	exp. 1, nar. 2	○○	nar. 間◎	×○	nar. 間◎	××	nar. 間○	○	マザー・テレサ	○
奥村 (14)	exp. 2, nar. 2	○○○○	exp. 間○ nar. 間◎	○○○◎	exp. 間○ nar. 間●	○○○○	exp. 間● nar. 間◎	○	人種差別	
奥村 (15)	exp. 2, nar. 2	○○○○	exp. 間◎ nar. 間○	○○○×	exp. 間○ nar. 間◎	●○○○	exp. 間● nar. 間●	○	人種差別	○

●：高い相関がある .7-1.0  
 ○：中程度の相関がある .4-.7  
 △：低い相関がある .2-.4  
 ×：ほとんど相関がない・有意ではない 0-.2  
 ◎：中程度の相関のなかで他よりも高い相関がある

#### 4. テキストタイプに応じたリーディング・ストラテジー指導の可能性

奥村<sup>17)</sup>は高校生を対象とし、テキストタイプに応じたL2読解指導を行った。2つの実験群のうち、Expository Classには通常の授業内容に加え、expositoryテキストに固有の特性に基づくリーディング・ストラテジーを、Narrative Classには通常の授業内容に加え、narrativeテキストに固有の特性に基づくリーディング・ストラテジーを指導した。

Expository Classに指導したリーディング・ストラテジーは以下のとおりである。

- a. テキストの構造を認識すること。
- b. Rhetorical organizationを認識すること。

Narrative Classに指導したリーディング・ストラテジーは以下のとおりである。

- a. 登場人物を認識すること。
- b. 物語スキーマ (story schema) を認識すること。
- c. 予測すること。
- d. 因果関係に注目すること。

Pre-testとPost-testの結果から次の点が明らかになった。

- ① テキストタイプに固有の特性に基づきリーディング・ストラテジーを指導した結果、指導されたタイプのテキストの読解力に伸長が見られた。
- ② リーディング・ストラテジー指導前の英語力により上位者、下位者に分けた場合、指導の効果がより明白に表れたのは下位者においてであった。

以上の結果が示唆するところは、次の3点である。

- ① テキストタイプに固有の特性に基づくリーディング・ストラテジー指導は有効である。
- ② いろいろなタイプのテキストを学習者に与え、それぞれのタイプに応じリーディング・ストラテジーを指導することにより、学習者の総合的な読解力の伸長が期待できる。
- ③ 特に英語力下位の学習者にはこの指導が必要である。

この研究ではリーディング・ストラテジー指導が明示的になされ、一定の効果をj得ることができた。指導は有効であり、特に英語力下位者の指導

に有効であった点は注目すべきである。

では、暗示的な指導は可能であろうか。学習者が意識することなくテキストタイプに固有の特性に基づくリーディング・ストラテジーを身につけさせることができれば、明示的な指導に加え、指導のバリエーションを増やし、学習者の思考を促すことが可能になる。その答えの一つに教師が与える発問がある。

奥村<sup>18)</sup>はリーディング指導においてより深い理解を促す指導の一つとして教師が与える発問に注目した。発問の中でも推論発問はテキストの情報に基づき読みを深めることを促す点で効果があるとされる。推論発問のうち精緻化推論を促す発問に焦点をあて、日本人英語学習者が物語文 (narrative) を読む際に、事実発問のみを与える場合と推論発問のみを与える場合の理解度をリコール・テストにより比較、検証し、後者の方が読みが深められることを明らかにした。これは、物語の読み深めを促す指導における推論発問の重要性を示唆している。物語文の特性に応じた読み深めのリーディング・ストラテジーを発問を通し暗示的に与えた効果があったと言える。

読み深めを促すためにはテキストタイプの特性を意識する必要がある。今後、expositoryテキストでの推論発問の検証も必要と考えられる。

#### 文献

- 1) Grabe W: Reading in a Second Language, Cambridge University Press, New York, 2009; 5.
- 2) Olson GM, Duffy SA, and Mack RL: Applying knowledge of writing conventions to prose comprehension and composition. Mckeachie, W. E. (Eds.): Learning, cognition, and college teaching.: Jossey-Bass, San Francisco, 1980; 67-84.
- 3) Olson GM, Mack RL and Duffy SA: Cognitive aspects of genre. Poetics, 1981; 10: 283-315.
- 4) Olson GM, SA Duffy, and RL Mack: Thinking-out-loud as a method for studying real-time comprehension process. Kieras DE and Just MA (eds.): New methods in reading comprehension research: Lawrence Erlbaum Associates Publishers, Hillsdale, New Jersey, 1984; 253-286.
- 5) 奥村信彦: L2におけるテキストタイプによる読解プロセスの特徴, 中部地区英語教育学会紀要, 2000; 29: 45-50.

- 6) 奥村信彦：テキストタイプがL2の読解プロセスに及ぼす影響—expository と narrative について—, 中部地区英語教育学会紀要, 1996; 26: 205–212.
- 7) 奥村信彦：テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響—リコール・テストによる検証—, 中部地区英語教育学会紀要, 2001; 30: 1–6.
- 8) Bernhardt E: Reading development in a second language. Ablex Publishing, Norwood, 1991
- 9) Okumura N: The Variances in L2 Reading Ability in Accordance with Text Type: Expository and Narrative Materials.: SURCLE (信州大学大学院教育学研究科英語教育専修研究論集), 1998; 1: 16–25
- 10) 奥村信彦：テキストタイプがL2の読解プロセスに及ぼす影響—複数のテキストによる検証—, 中部地区英語教育学会紀要, 2004; 33: 247–252.
- 11) 奥村信彦：テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響—共通のトピックのテキストによる検証—, 中部地区英語教育学会紀要, 2005; 34: 37–42.
- 12) Alderson JC: Assessing reading. Cambridge University Press, Cambridge, 2000; 44.
- 13) 奥村信彦：テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響—背景知識との関係—, 富山商船高等専門学校研究収録, 2005; 38: 113–118.
- 14) 奥村信彦：テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響—2つのタイプ4つのテキストのリコール・プロトコル分析による検証—, 中部地区英語教育学会紀要, 2006; 35: 131–138.
- 15) 奥村信彦：テキストタイプがL2読解力に及ぼす影響—背景知識を共有する読者による検証—, 長野工業高等専門学校紀要, 2006; 40: 69–74.
- 16) 奥村信彦：テキストタイプとL2読解力における困難点との関係, 中部地区英語教育学会紀要, 2008; 37: 239–246.
- 17) 奥村信彦：テキストタイプ (expository と narrative) に応じたL2読解指導とその成果, 英語教育 (開隆堂), 1998; 50-3: 6–11.
- 18) 奥村信彦：発問のタイプが物語の読み深めに及ぼす影響, 中部地区英語教育学会紀要, 2014; 43: 31–36.